

## 総合科学技術会議が実施する 国家的に重要な研究開発の評価について

平成14年11月11日

研究開発の評価は、研究開発活動の効率化・活性化を図り、優れた成果の創造や研究者の養成を推進し、社会・経済への還元等を図るとともに、国民に対して説明責任を果たすために、極めて重要な活動である。中でも、大規模な研究開発その他の国家的に重要な研究開発については、国の科学技術政策を総合的かつ計画的に推進する観点から、総合科学技術会議が自ら評価を行うこととされている。平成14年度の評価に係る検討状況と今後の課題は以下の通りである。

なお、平成15年度予算編成にあたっては、科学技術政策担当大臣及び総合科学技術会議有識者議員において、「平成15年度科学技術関係概算要求の優先順位付けについて」(平成14年10月18日)をとりまとめたところであるが、その作成に当たっては、評価に係る本検討の内容を活用した。

### 1. 検討状況

#### (1) 大規模新規研究開発の評価

評価専門調査会において、総額が約500億円以上の3つの研究開発(再生医療の実現化プロジェクト、準天頂衛星システム、イネゲノム機能解析研究)を対象に、その目標や効果、実施体制等について、専門家や有識者も招聘して検討し、その内容を中間的にとりまとめた(資料2-2)。

今後、評価専門調査会で更に検討し、次回の総合科学技術会議でとりまとめることとする。

#### (2) 総額約10億円以上の研究開発の評価

評価専門調査会において、平成13年9月から平成14年8月までに府省で評価が実施された総額約10億円以上の研究開発

164課題を対象に、府省評価における評価目的の設定や評価者の選任、評価の観点や評価結果の適切性等について調査・検討を行った。

「総額約10億円以上の研究開発の評価(案)」は資料2-3のとおり。

### (3) 総合科学技術会議が必要と認め指定して行う評価(注)

評価専門調査会において、社会的関心が高い「脳科学総合研究」と、複数の府省にまたがる「タンパク質関係4プロジェクト」について指定の適否を検討したが、何れも、研究開発の内容、推進体制、評価の実施等は適切と考えられ、総合科学技術会議が指定して評価を行う必要性は認められなかった。

引き続き、他の研究開発についても、評価専門調査会で指定の必要性について検討を行う。

注:(1)(2)とは別に以下の視点から評価の必要性を判断

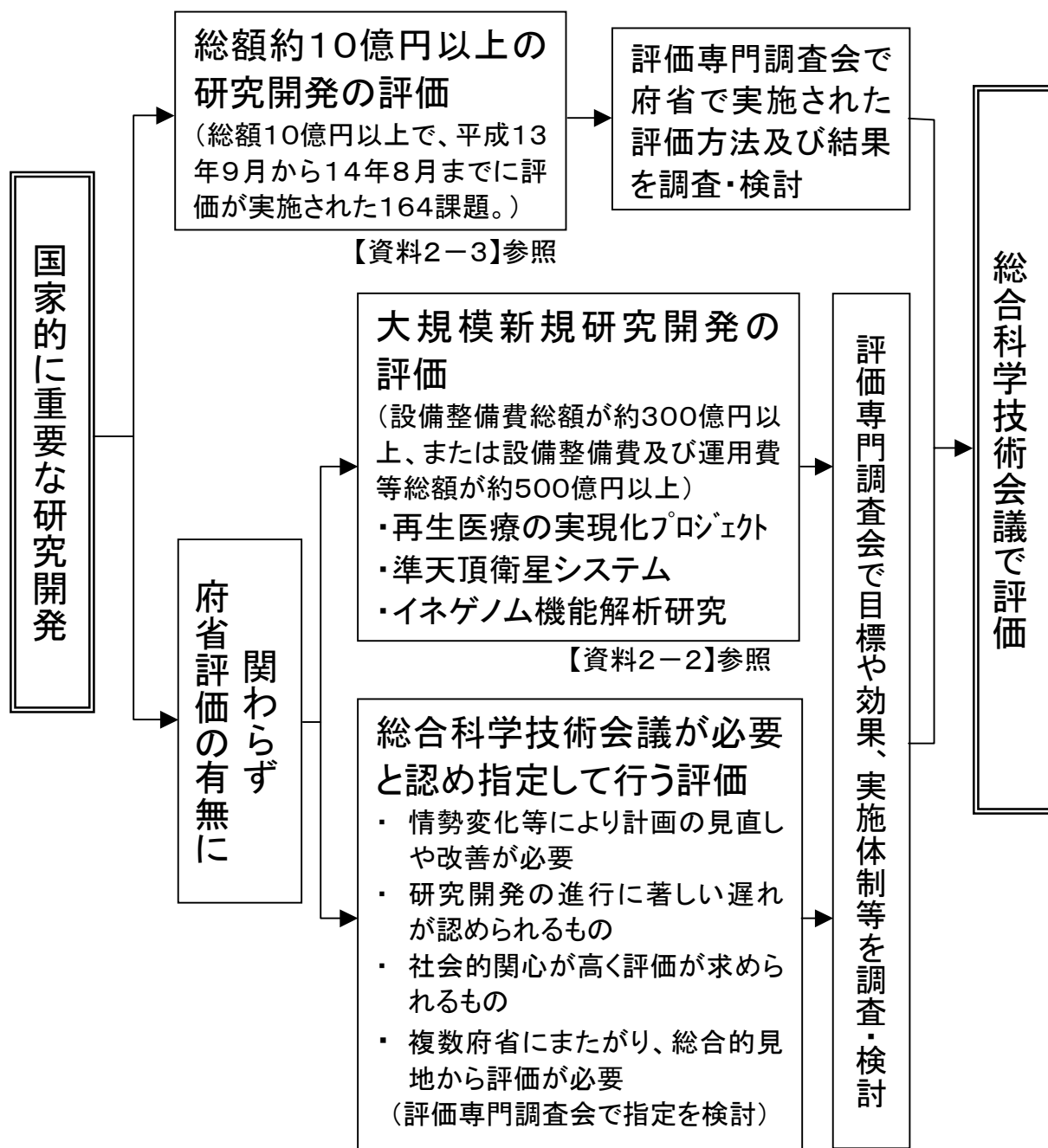
- ・ 科学技術や社会経済の情勢の変化等により計画の大幅な見直しや改善が必要なもの
- ・ 目標の達成度が不十分であるなど、研究開発の進行に著しい遅れが認められるもの
- ・ 社会的関心が高く評価が求められるもの
- ・ 複数の府省にまたがって実施されているもので、総合的な推進を図る見地から評価が求められるもの

## 2. 今後の課題

1. の評価専門調査会における調査・検討を通して、以下の課題が認められた。来年度の評価プロセスに反映させるべく、評価専門調査会において調査・検討を進め、来春を目途に総合科学技術会議としての結論を得る。

- ① 府省の評価報告書の在り方
- ② 予算概算要求に先立つ府省の事前評価の在り方
- ③ 総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価方法の在り方

## 総合科学技術会議が行う評価について(平成14年度)



- 平成15年度予算編成に当たり、「平成15年度科学技術関係概算要求の優先順位付けについて」(平成14年10月18日 科学技術政策担当大臣 総合科学技術会議有識者議員)の作成に活用。
- 評価専門調査会において評価結果(指摘事項等)への対応状況を確認。